

廃材で吸音パネル、南部弁アプリ制作

専門科高校6校研究発表会

八戸



研究成果を発表する高校生

青森県産業教育振興会三八地区協議会（会長・竹花孝治、八戸工業高校長）は20日、八戸市のデーリー東北ホールで、専門科を持つ高校による「生徒研究発表会」を開催した。生徒は日頃の研究成果を堂々とアピールした。

生徒の発表力を養うとともに、学校の枠を超えて学び合うのが目的で、3年ぶりに開催された。八戸工大一、八戸学院光星、県立八戸水産、八戸商業、八戸工業、名久井農業の6高校が参加。協賛する企業や学校関係者の前で授業などで取り組んできた研究成果を発表した。

八戸工大一高のメンバーは廃材を利用した吸音パネルの製作について説明。木材の高騰などを受けて発案したもので、ある程度の防音効果が見込まれることを示した。

八戸水産高はアブラメに対応したコンニャク使用の釣り餌開発、八戸商業高は南部弁をアピールするアプリの制作を説明するなど多彩な内容が披露された。（藤村大地）